

009	編集長独白
011	表紙の時計／ロレックス・オイスター・パーペチュアル・コスモグラフ・デイトナ Ref. 116506
013	Editor's Choice!
022	ウブロ 5ミリオン\$ビッグ・バン／オーデマピゲ ミレネリー・オニキストウルビヨン
025	リシャール・ミル RM 27-01 トウルビヨン ラファエル・ナダル／ ブレゲ グイーン・オブ・ネイプルズ 8908／ジャケ・ドロー グラン・ウール GMT デイオール シフルルージュ C 03／シヨーム リアン／ピアジェ ライムライト・ガラ／ ノモス ゴールデン・コレクシヨン ラムダ
022	世界は時計で回っている。
025	ヴァシユロン・コンスタンタン・コレクシヨン
032	ヴァシユロン・コンスタンタン
036	ヒストリック・コレクシヨン
038	エルメス アルソーリフト
040	ユリス・ナルダン マリーン・クロノグラフ・マニユファクチュール
045	アーノルド&サン・コレクシヨン

### 2014 新作情報 (ジュネーブ編)

## 継続と発展を導くための確実な足取り

2針からコンプリケーションまで各社が競う薄型モデルや、凝った装飾技法を駆使したメティエ・ダール、またダイバース・ウオッチの数々など、今年も話題豊富なジュネーブでの新作発表会となった。1月20日から25日にかけて開催された第24回SIHHをはじめ、ウオッチランド・グループのWPHHや市内のホテルで開催された新作展示会でデビューした新作をブランド別に取り上げる。

## 伝統に根づく進化

現在、全製品の約75%でジュネーブ・シールを取得し、ジュネーブの正統派として伝統を守り続けるヴァシユロン・コンスタンタン。シンプル・ウオッチ、スケルトン、クロノグラフを通して、今日のあり方を紹介。

## ヒストリック・コレクシヨン

昨年、東京で開かれたヒストリック・コレクシヨンのオリジナルと復刻モデルの展示会で紹介されたモデルを誌上で再現し、ヴァシユロン・コンスタンタンの創造性の伝統に焦点を当てる。

## エルメス アルソーリフト

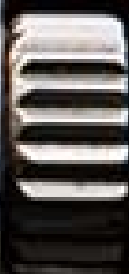
ユリス・ナルダン マリーン・クロノグラフ・マニユファクチュール

## アーノルド&サン・コレクシヨン

084	ジャガー・ルクルトCEOダニエル・リエドさんに訊く 「ブランドがもつ美的な創造性をさらに強調していきます」
086	ウブロ会長兼LVMHウオッチ・デヴィジョンプレジデント、ジャンクロード・ビバーさんに訊く 「成功の秘訣は前例がない、他と異なっている、ユニークであることです」
088	ラドー ムダイヤモンドスター & エセンサ セラミック タッチ
090	時計ジャーナリスト 瀧澤 広のマイ・チヨイス 第13回 薄型スケルトン・ウオッチ ピアジェ エアルティプラノ・スケルトン 腕時計新着情報
092	ジェットセッターのためのワイルドタイム・ウオッチ セイコー アストロン / ジェイコブ ゴースト / シチズン アテッサ ダブルダイレクトフライト / カシオ オシアナスマンタ 腕時計新着情報
096	パテック・フィリップ展 歴史の中のタイムピース
104	時を知る 時計の歴史 / 日時計の誕生から最新の複雑機構への歩み
106	インポート・ウオッチ・オブ・ザ・イヤー 2013
108	ロレックスメントー&プロトジェアート・イニシアチヴ
110	リシャール・ミル x ヨハン・ブレイク 東日本大震災被災児サポート
112	パネライ大阪ブティックオープン / 日新堂銀座本店リニューアル
114	ノーブルスタイリング ギャラリー
115	セイコーミュージアム スポーツ計時展示コーナーリニューアル
116	ジャン・ルソー オーダー・ウオッチストラップ&革小物
117	インフォメーション
118	天賞堂 JAPAN BRAND 伝統工芸時計文字盤コンテスト
121	メーカー&ショップリスト
124	
128	次号予告

ヴァシユロン・コンスタンタン・コレクション

# 伝統に根づく進化



ヴァシユロン・コンスタンタンは2014年のSIHHではスケルトン・モデルとメティエ・ダールを調和させた新作を発表し、穏やかに進化する伝統を表現した。ここでは今日の主要モデルを通して、ジュネーブの正統派の「いま」をみてみたい。

文／香山知子(本誌編集部) 写真／青木健格(WPP)



アーノルド&サン コレクション

# 洗練さを増して日本市場に再登場

一時期、日本市場から姿を消していたアーノルド&サンが昨年末から再び一部の時計店にお目見えしている。時計史に名を残すイギリス人時計師ジョン・アーノルドへのオマージュとして構築されるコレクションは、ブランドの技術力を前面に押し出したものとなっている。

ジョン・アーノルド（1736〜17

99）はアブラムールイ・ブレゲ（1747〜1823）と同時代に生きた時計師で、デテント脱進機やバイメタル・バランス、オーヴァーコイル・バランススプリングなどで特許を取得し、ブレゲ同様に時計製造に多くを遺したひとりだ。またクロノメーターやミニットリピーターなどの複雑時計の製作でも知られる。

アーノルドとブレゲは方やロンドン、方やパリを拠点に活躍していたが、ふたりの交流は密接で、それぞれの息子は見習いとして互いの工房で修業したという。ブレゲの名前が再び時計の世界に登場したのは1970年だが、それより四半世紀遅れて1995年、アーノルドの名はラ・ショー・ド・フォンで甦った。

1995年以降、幾多の変遷を経て、現在、アーノルド&サンはムーブメント・メーカーのラ・ジュウ・ペレとともにラ・ショー・ド・フォンにあるプロサー・ホルディングス社（2012年3月にシ



「HMS1」。手巻き、A&S1001（直径30mm、厚さ2.7mm、21石。毎時2万1600振動。パワーリザーブ約90時間）を直径40mmのステンレススチール・ケースに搭載する。シースルー・バック。3気圧防水。価格105万円（4月1日以降108万円）。ほかに18Kホワイトまたはローズゴールド・ケースもそろう。

チズン・ホールディングスの完全子会社化）の傘下であり、ラ・ジュウ・ペレの工場内に専用工房を設けている。

現在のコレクションは大きくふたつに分けられる。ここに紹介する2点はクラシカルなロイヤル・コレクションに属するもので、「ジョージ三世をはじめとする英国王室の人々のためにジョン・アーノルドが手がけた時計に捧げるモデル」とされる。英国風のムーブメントのブリッジのデザインや仕上げを取り入れている点特徴だ。最もベーシックなラインが上の「HMS1」で全9型が揃う。ギョウシエを施したブルーのディスクに配された月と星のゴールドが美しい「HMパーベチュアルムーン」はアーノルド&サン独自のムーブメントを搭載し、月齢表示はモジュールではなくムーブメントに一体化されている。裏蓋側の6時位置にはムーンフェイズを正しく調整するために月齢を針で示す表示を備えている点も特筆すべき点だ。



# A.LANGE & SÖHNE

## A.ランゲ&ゾーネ

☎A.ランゲ&ゾーネ ☎03-3288-6639

# 第24回 SIHH 国際高級時計サロン

常に新機軸を  
見せる開発意欲と  
機構に秘められた  
正確さのこだわり

A.ランゲ&ゾーネの新作の楽しみはなんといっても複雑時計にある。毎年、登場する複雑時計の新機軸は、ブランドの開発技術力を示すもので、スイス・メーカーとは異なるアプローチが注目される。特に昨年は過去の懐中時計から発想した「グランド・コンプリケーション」を発表し、ほぼ頂点に到達したかのようだったが、今年も天文表示という新たな領域が開拓された。また「1815」が再構築され、ケースが新しくなり、サイズも見直され、またふたつの特許取得機構を併せ持つトゥールビヨンが加わり、コレクションの充実が図られている。



「サクソニア」。女性に向けたモデルの開発に力を入れる高級ブランドが多いが、A.ランゲ&ゾーネも例外ではない。そして女性モデルに選ばれたのが、2007年にリニューアルした「サクソニア」だ。2012年に自動巻きモデルが発表され、それに次ぐものとなる。18Kホワイトゴールドのケースに60個のブリリアントカット・ダイヤモンドをセットし、マザー・オブ・パールの文字盤を組み合わせ、エレガンスを表現している。ケースの直径も35mmで、女性の腕にも違和感なく収まるサイズだ。ムーブメントは2011年以来、サクソニア・コレクションに搭載される手巻き、Cal.L941.1を改良したCal.L941.2(21石。毎時2万1600振動。パワーリザーブ約45時間)を搭載し、サファイアクリスタル・バックから見る事ができる。文字盤は写真のホワイトのほか、ブラウンがある。予価354万2400円。5月以降発売予定。

「ランゲ1 トゥールビヨン・パーベチュアルカレンダー」。2012年に「ランゲ1」初の永久カレンダー・モデルとしてプラチナ・ケースで発表されたが、今年は18Kピンクゴールド・ケースが加わった。基本的な仕様は変わらず、直径41.9mmのケースに自動巻き、Cal.L082.1(76石。毎時2万1600振動。パワーリザーブ約50時間)を搭載する。ランゲ1のレイアウトを生かすために文字盤外周に月表示リングを置き、リングが回転し、6時位置の矢印が月を示すという、通常とは異なる機構が開発された。122.6年に1日の誤差のムーブメント、日付、曜日は午前0時に瞬時にジャンプして変わる点も技術的な特徴となっている。また裏側には特許を取得したストップセコンド機構を備えるトゥールビヨンを備える。ケース径41.9mm。予価3349万800円。4月以降発売予定。

「1815」。1995年にアドルフ・ランゲの誕生年から1815と名付けられて発表されたコレクションで、「どの製品も、簡素であっても地道かつ確実にその役割を果たすことができる」というアドルフ・ランゲの信念を具現化している。シンプルな意匠、そしてブルード・スチールの針が特徴でもある。今まで多くのモデルが発表され、また製造中止となり、現在ではクロノグラフと手巻きのみとなったが、今年はケースの見直しが行われ、従来の40mmよりも小ぶりな38.5mmが発売された。ムーブメントは既存モデルと同様に手巻き、Cal.L051.1(23石。毎時2万1600振動。パワーリザーブ約55時間)を搭載する。写真の18Kピンクゴールド、予価249万4800円のほか、18KWG、予価261万3600円、18KYG、249万4800円が発売となる。4月以降発売予定。